



里山に育む生きものたち

23 キカラスウリ

(スミレ目 ウリ科)

学名 *Trichosanthes kirilowii* Maxim.
var. *japonica* (Miq.) Kitamura

写真・文 / 安 昌美

冬に目立つ花や実をつける植物は春や秋に比べて少ないです。今月は秋に目立つものですが、冬まで残っていることのあるキカラスウリの果実を中心に紹介します。

▼キカラスウリとは

ウリ科カラスウリ属に属する多年草で、和名は黄鳥瓜。カラスウリ（鳥瓜）に似ていますが、果実は熟すると黄色になります。写真は冬のもので、表面も光沢が無く、少ししぼみかけています。秋には光沢があり、大きさもカラスウリより大きく、巻きついた木に黄色の実が多数ぶら下がる様は壮観です。残念ながら、熟期の果実は茨城町では

まだ見ていません。しかし、水戸市や石岡市などで出会っていますので、町内でも見られると思います。

キカラスウリは日本固有で北海道（奥尻島）から本州、四国、九州の山野のやぶや林の縁などに生えています。近縁のチョウセンキカラスウリは朝鮮、中国、ベトナムに分布し、果実は黄橙色に熟し、古くから薬用植物として知られています。カラスウリは町内でもよく見られますが、果実は赤く熟します。私の野帳ではカラスウリは町内各地の記録がありますが、キカラスウリは少なく海老沢、長岡、中石崎などです。町内ではカラスウリより少ないのかも知れません。

▼キカラスウリの生活

花は8〜9月頃咲きますが、カラスウリと同じく、夕方から夜に咲き、朝方にはしぼんでしまいます。花弁の先までよく伸びきった写真を撮るのは大変です。花は白く、夜でも目立ちます。また、蜜も出し、香りも出して虫を呼びます。花の構造からスズメガの仲間が花粉の運搬をするといわれます。雌雄異株なので、送粉者は重要です。雌株は毎年花を咲かせますが、雌株は太い根に数年にわたって養分を蓄えたのちに雌花を着け、果実を成熟させたのちに枯死することがあるそうです。

▼ウリ科の作物

ウリ科には100属850種が知られ、主に熱帯から亜熱帯に分布しています。身近な作物にはキュウリ、カボチャ、メロン、マクワウリ、スイカ、トウガン、ニガウリ、ヘチマ、ユウガオなどがあります。時代は異なりますが、すべて外国から日本に入ってきたものです。作物ではありませんが、戦後日本に侵入してきたアレチウリは河川敷等に広がり困っています。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤 1080 TEL029-292-1111 FAX029-292-6748
ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成 26 年 1 月 31 日現在)
◆総人口 34,060 人 (-62) 男 17,046 人 (-25) 女 17,014 人 (-37) ◆世帯 12,525 戸 (-34)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インクを使用しています